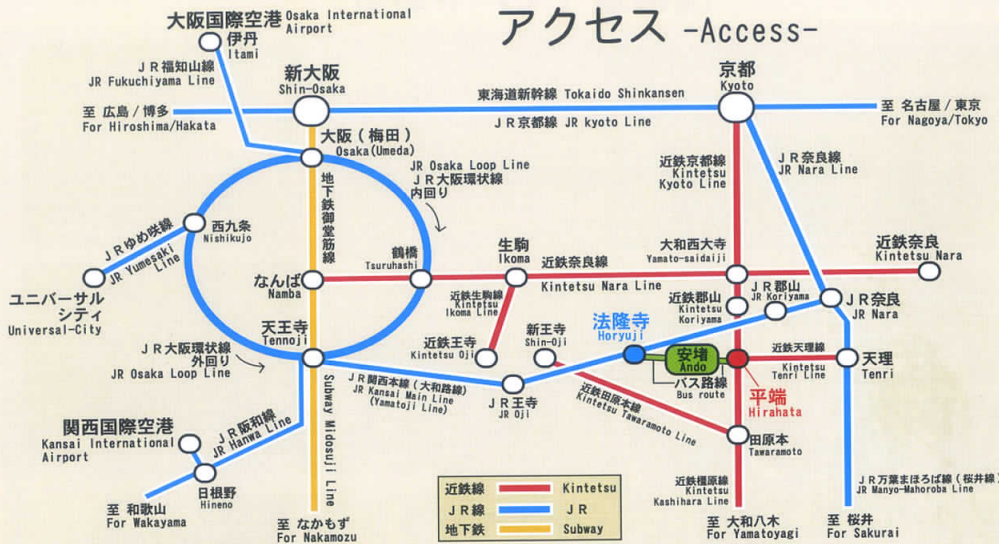


アクセス -Access-



電車をご利用の場合

- JR**
- 大阪から
J R大阪駅→J R関西本線・大和路快速（加茂行または奈良行）→法隆寺駅
 - USJから
ユニバーサルシティ駅→J Rゆめ咲線→西九条駅→J R大阪環状線 外回り→J R天王寺駅→J R大和路線→法隆寺駅
 - 天王寺から
J R天王寺駅→J R大和路線（加茂行または奈良行）→法隆寺駅
 - 関西国際空港
関西空港→J R阪和線・関空快速→J R天王寺駅→J R大和路線→法隆寺駅
 - 大阪国際空港（伊丹空港）
J R伊丹駅→J R福知山線→J R大阪駅→J R関西本線・大和路快速（加茂行または奈良行）→法隆寺駅
 - 京都から
J R京都駅→J R奈良線（奈良行）→J R奈良駅（大阪方面行乗換）→J R法隆寺駅
- 近鉄電車**
- 京都から
近鉄京都駅→近鉄京都線・橿原線（橿原神宮前行または天理行。奈良行の場合、大和西大寺駅で乗換）→近鉄平端駅

By Train

- JR**
- from OSAKA
JR Osaka St.→JR Kansai Main Line→Horyuji St.
 - from USJ
Universal-City St.→JR Yumesaki Line→Nishikujo St.→JR Osaka Loop Line→JR Tennoji St.→JR Yamatoji Line→Horyuji St.
 - from TENNOJI
JR Tennoji St.→JR Yamatoji Line→Horyuji St.
 - from KANSAI INTERNATIONAL AIRPORT
Kansai airport St.→JR Hanwa Line→JR Tennoji St.→JR Yamatoji Line→Horyuji St.
 - from OSAKA INTERNATIONAL AIRPORT
JR Itami St.→JR Fukuchiyama Line→JR Osaka St.→JR Kansai Main Line→Horyuji St.
- KINTETSU RAILWAY**
- from KYOTO
Kintetsu Kyoto St.→Kintetsu Kyoto Line or Kashihara Line→Kintetsu Hirahata St.

自動車をご利用の場合

- 法隆寺より.....約5分
- 奈良公園より.....約30分
- 薬師寺より.....約20分
- まほろばキッチンより.....約30分
- 飛鳥より.....約30分
- 西名阪自動車道
法隆寺ICより.....約6分
- 大和まほろばスマートICより.....約5分

バスをご利用の場合

- J R法隆寺駅から東安堵まで 約8分
 - 近鉄平端駅から東安堵まで 約25分
- 奈良交通・安堵町コミュニティバスがご利用いただけます。

このパンフレットはPDF
ファイルでダウンロード
していただけます。



NARA Ando Town Sightseeing Guide

あかりのまち
安堵
あんど

小さくても
キラリ光る交流のまち

目次

「古の歴史と文化の香る町」 2

歴史探訪 Historical Background

安堵の歴史 4

近代陶芸の巨匠 富本憲吉 6

奈良県再設置の功労者 今村勤三 7

伝統産業 灯芯ひき 8

観 光 Sightseeing

安堵町 観光マップ 10

安堵町モデルコース 12

■安堵町歴史民俗資料館 ■極楽寺 ■善照寺
■旧天理軽便鉄道 木戸池築堤

太子道コース 14

■飽波神社 ■広峰神社 ■高塚

奈良県「歩く・なら」推奨コース 16

■中家住宅 ■馬場塚 ■杵築神社
■芦屋道満屋敷跡

お 土 産 Souvenirs

安堵町の土産 18

イベント Events

主なイベント歳時記 20

この観光パンフレット「あかりのまち 安堵」では、日本語解説に加え、一部の解説では、英訳を用いております。

This pamphlet entitled *Akari no Machi Ando (Ando, Town of Light)* contains explanations in Japanese with certain portions translated into English.

奈良県生駒郡 安堵町

面 積：4.33km²

総人口：7,929 人（国勢調査 平成 22 年 10 月 1 日現在）

町の花：テイカカズラ・ナデシコ

町の木：モチノキ

安堵町ホームページ

<http://www.town.ando.nara.jp/>



テイカカズラ



ナデシコ



モチノキ

国指定文化財



持仏堂



外観



新座敷



母屋



内堀

重要文化財 中家住宅

16ページ



重要文化財 極楽寺阿弥陀如来坐像

13ページ



重要文化財 大福寺地蔵菩薩立像

(現在は奈良県国立博物館に寄託されています。)

県指定文化財

有形民俗文化財 飽波神社(本殿)

14ページ



飽波神社

有形民俗文化財 なもで踊り関連資料 15ページ



なもで踊り図絵馬 (飽波神社)

無形民俗文化財 東安堵の六斎念仏(大寶寺六斎講)



盆行事の唱和のようす (東安堵・高塚)

いにしえ

「古の歴史と文化の香る町」

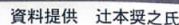
奈良県安堵町は世界遺産のひとつ、法隆寺の南東に位置する「古の歴史と文化の香る町」です。四季を通じて趣のある田園風景がひろがります。また、安堵町は、古代から、水上交通の要衝にあり、戦前には、JR法隆寺駅に隣接していた新法隆寺駅から平端駅（近鉄平端駅付近）の間を天理軽便鉄道が行き交い、さまざまな文化がこの地に歴史を刻んできました。聖徳太子が斑鳩宮から飛鳥へ通ったとされる太子道も残っています。

わが国の灯りを支えてきた灯芯も、この町でひかれ、全国に届けられてきました。それが、灯明の芯となり、さらに、和ろうそくの芯となって、長らく日本の暮らしを支えてきました。安堵町は「小さくてもキラリ光る交流のまち」です。

The town of Ando in Nara Prefecture carries an air of ancient history and culture and is located southeast of Horyuji Temple, a world heritage site. The atmospheric pastoral scenery of the town can be experienced in each of the four seasons. Various cultures have also left their historical imprint on the area, as Ando has been a water transportation hub since antiquity and was served by the Tenri Keiben Railway running from Shin Horyuji Station (which was adjacent to where JR Horyuji Station is today) to Hirahata Station (near present-day Kintetsu Hirahata Station) prior to World War II. Taishimichi, the road Prince Shotoku is said to have taken from Ikaruga Palace to Asuka, also remains.

The lamp wicks (Toushin) that supplied Japan's lighting (Akari) industry were also made in this town and delivered throughout the country. These wicks were used in lanterns and Japanese candles, supporting lifestyles in Japan over a long period. Ando may be small, but it is a town gleaming with cultural interactions.

この水上交通は、のちに大きな流通へと発展し、大和の経済を支えました。水量がある河内の方は剣先船が、水深が浅い大和の方は「魚梁船」とよばれる小型の川船が荷を運んでいました。水上交通は大和各地から集めたお米を河内に、河内から肥料や塩を大和各地に運んでいました。交易は、中世から明治の中頃まで盛んで、大和各地は御幸ヶ瀬浜（現在の安堵町笠目：御幸橋付近）や、板屋ヶ瀬浜（現在の安堵町窪田・大和郡山市の境界付近）など、多くの人でにぎわっていました。



太子道ルートコース…14 ページ



The Ando area is located in a low portion of the Nara basin at the confluence of most of its rivers. As such, the town was a key point for water transportation in the Asuka Period, linking Namba and Asuka. Ando was also an important hub for Japan's interaction with the Sui and Tang dynasties, as well as other countries of mainland Asia. The name "Ando" is said to have originally been known as "Ato," a name that can be seen in various place names listed in the Nihon Shoki (*Chronicles of Japan*), such as Ato no Kuwaichi and Ato no Kawabe no Yakata (a state guest house).

 Taishimichi (The Prince's Road)

With regard to land transport, it is traditional held that the Taishimichi that runs through Ando was the road taken by Prince Shotoku from his home in Ikaruga Palace to Asuka, on his favorite horse named Kurokoma. The Taishimichi is also known as the Sujikaimichi ("diagonal brace road") because it is tilted about 20 degrees to the west from the major north-south roads in the Asuka Period, which were the Kamitsumichi, Nakatsumichi, and Shimotsumichi



近代陶芸の巨匠 富本憲吉

Kenkichi Tomimoto, a Master of Modern Ceramics



富本憲吉
Kenkichi Tomimoto



赤地金銀彩染付
村落遠望図大陶板【製作年：1959年】



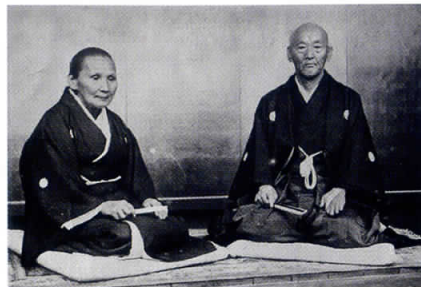
富本憲吉の生家

安堵町出身の富本憲吉(1886～1963)は、日本近代陶芸の巨匠として広く知られています。昭和30(1955)年には重要無形文化財技術保持者(人間国宝)にも認定され、また昭和36(1961)年には文化勲章を受章しています。安堵の美しい自然と景観のなかで育まれたところと技は、近代陶芸の巨匠と呼ばれる憲吉独自の清純で華麗な世界をつくりあげました。繊細で美しく気品にあふれる色絵磁器の数々は特に必見です。彼の残した足跡は、「陶芸のさと安堵」として後世に受け継がれているのです。

- 1886年(明治19年) 東安堵村(現奈良県生駒郡安堵町東安堵)の旧家、富本家の長男として誕生。
- 1909年(明治42年) 東京美術学校(現東京芸術大学)を卒業。
- 1911年(明治44年) バーナード・リーチとともに美術新報主催新進作家小作品展覧会の会場装飾を担当。
- 1913年(大正2年) 安堵の自宅に楽焼窯を築く。
- 1915年(大正4年) 安堵の自宅近くに本焼の窯を築き、初窯を焚く。
- 1919年(大正8年) 朝鮮から浅川伯教が訪れ、朝鮮陶磁器の話聞く。この頃、独自の「白磁壺」を製作。
- 1926年(大正15年・昭和1年) 東京移住。
- 1927年(昭和2年) 国画創作協会第6回展洋画部に「富本回顧展」の一室を与えられ、大和時代の作品、図案など200点あまりを出品する。
- 1935年(昭和10年) 帝国美術学校(現武蔵野美術大学)教授に就任。
- 1936年(昭和11年) 九谷の北出塔次郎の窯に長期滞在し、色絵磁器を製作。
- 1937年(昭和12年) 京都・清水で染付「竹林月夜」模様の菓子皿を量産する。
- 1938年(昭和13年) 第2回新文展に色絵陶板を出品。
- 1940年(昭和15年) 紀元二千六百年奉祝美術展覧会委員を務め、色絵ダリヤの花陶板を出品。
- 1941年(昭和16年) 大阪梅田阪急百貨店で「富本憲吉近作陶磁観賞展」を開く。四弁花連続模様はこの頃に完成された。
- 1942年(昭和17年) 東京高島屋で「富本憲吉個人展覧会」を開く。
- 1944年(昭和19年) 東京美術学校教授、東京美術学校工芸技術講習所主事を兼任する。同校の美術品の疎開先、飛騨高山へは度々赴き、浪草焼の窯を借りて生徒へ実技指導する。
- 1945年(昭和20年) 工芸技術講習所の職員・生徒は飛騨高山に疎開する。終戦後、職員・生徒は本校に帰ったが、憲吉は高山に残留し、研究と制作を続けた。
- 1946年(昭和21年) 単身郷里安堵へ帰る。東京美術学校教授、帝国芸術院会員を辞任する。
- 1950年(昭和25年) 京都市立美術大学教授に就任。
- 1955年(昭和30年) 第1回重要無形文化財技術保持者(色絵磁器)に認定される。
- 1961年(昭和36年) 文化勲章受章。
- 1963年(昭和38年) 京都市立美術大学学長に選任されるも、六月に逝去。従三位勲二等旭日重光章を贈られる。

奈良県再設置の功労者 今村勤三

Kinzo Imamura, a Meritorious Contributor to the Re-institution of Nara Prefecture



今村勤三の生家：安堵町歴史民俗資料館…12ページ

今村家は、東安堵村で代々庄屋役などの村役を務めた家です。村の氏神である飽波神社宮座の座員としても名を連ね、江戸初期の貞享年間(1684～1688)にはその存在を確認することが出来ます。

この今村郎(現安堵町歴史民俗資料館)は、幕末の天誅組で有名な伴林光平とも深い親交で知られる今村文吾(1808～1864)や明治20(1887)年に大阪府から奈良県を独立・再設置に導いた運動家である今村勤三(1852～1924)、大阪帝国大学(現大阪大学)第5代総長・文化功労者の今村荒男の生家でもあります。



今村文吾
Bungo Imamura



今村勤三
Kinzo Imamura



今村荒男
Arai Imamura

Kenkichi Tomimoto, a Master of Modern Ceramic

Kenkichi Tomimoto (1886-1963), who was born in Ando, is widely recognized as a master of modern Japanese ceramics. In 1955 he was designated as a holder of important intangible cultural assets (a living national treasure) and in 1961 he received the Order of Cultural Merit.

Kinzo Imamura, a Meritorious Contributor to the Re-institution of Nara Prefecture

Kinzo Imamura was an activist who led the movement for the independence and re-institution of Nara Prefecture from Osaka Prefecture in 1887. The Imamura-tei (now the Ando Town Folk Heritage Museum) was also the home of Bungo Imamura (1808-1864), who was known for his close friendship with famous Tenchu-gumi member Mitsuhiro Tomobayashi from the closing days of the Tokugawa Shogunate, Kinzo Imamura (1852-1924), and Arai Imamura, the 5th President of Osaka Imperial University (now known as Osaka University) and a person of other meritorious cultural contributions

伝統産業 灯芯ひき

Lamp Wick Making, a Traditional Industry



蘭草作り

安堵町は、大和川、富雄川、岡崎川が合流する地に位置しています。江戸時代中期ごろから灯芯に用いられる蘭草が米の裏作として栽培されていました。人々は稲作地をうまく運用して11月から6月の間に蘭草を栽培していたのです。身近な現金作物として安堵町全域で生産され、灯芯の一大生産地となっていたのです。梅雨の合い間に行われた蘭草刈りや、川の堤防沿いでの蘭草干しの風景は、安堵町ならではの夏の風物詩でした。しかし、灯芯の需要低下に伴い生産量も次第に減少し、昭和43(1968)年を最後に蘭草の栽培は行われなくなりました。近年は有志で発足された灯芯保存会が栽培をおこなっており、伝統が継承されています。

灯芯は蘭草の皮を除いた“髓”の部分で、油をしみ込ませて火をともしには最適の素材です。ひと昔前の生活には、なじみの深い日用品だったのです。



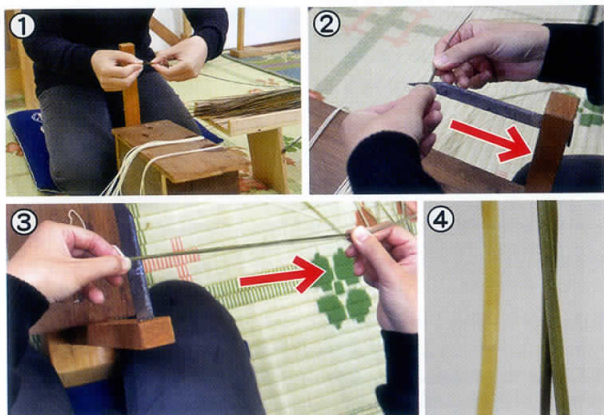
生育した蘭草



蘭干し風景

灯芯ひき

よく水に浸した蘭草を「ひき台」とよばれる道具の刃で外皮をひき裂き、“髓”を切断することなくひき出します。ひき出された灯芯は1メートル内外の長さがありますが、これらを一束にまとめて結び吊して乾燥させて出来上がります。



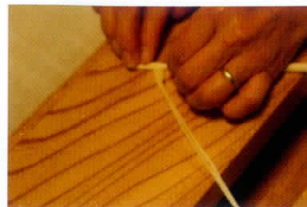
- ① 灯芯ひき台を用いて、事前に湿らせた蘭草を使います。
- ② 灯芯ひき台の上部にある刃先を用いて蘭草を矢印方向（自分に向かって）へ少し刺します。
- ③ 刃先へと刺した蘭草を右手を使い矢印方向へ剥いていきます。この時の左手は刃先と蘭草がずれないように押さえます。
- ④ 蘭草から取り出された灯芯（写真：左）と蘭草殻（写真：右）です。



長灯芯

芯巻き

灯芯は、和ろうそくの芯としても使われています。竹串に和紙、灯芯を巻き付けていきます。さらに真綿（絹）を絡めて芯を作ります。



中川商店
(安堵町)

和ろうそく作り

和ろうそくは、型のなかでろうを固める方法（型がけ）と、芯の上からろうを少しずつ手で塗り固めていく方法（手がけ）があります。古来、日本に伝わったろうそく作りの技術が、日本にのみ生息する天然のハゼの実を原料として、独自の和ろうそく作りを発展させてきました。

和ろうそくは洋ろうそくにはない、ほのかに優しい揺らぎのある灯りを届けてくれます。



写真提供 飛騨市観光協会

三嶋和ろうそく店
(岐阜県飛騨市古川町)

柔らかな炎のあかり



灯芯は現在は、寺社の灯明、墨作りの採墨、茶事の灯りに用いる長灯芯、和ろうそくの芯としての需要が主要なものとなっています。用途によってそれぞれ趣のある光を放ちます。

体験できます（要申込）

蘭草から髓をひき出す技を体験。安堵町で古くから受け継がれてきた伝統技術を展示見学とともに楽しめます。（小学3年生以上対象）

安堵町歴史民俗資料館… 12 ページ



V Lamp Wick Making(Toushin-hiki), a Traditional Industry

Lamp wicks are made from the piths of stalks of Japanese lamp rush (a type of grass) with the husks removed, providing the ideal material for lamp lighting because of how it absorbs the oil. Lamp rush stalks that have been thoroughly soaked in water have their husks torn off with the blade of a tool called a "hikidai" (pulling board), enabling the piths to be pulled out without cutting them. These lamp wicks are also used as the wicks of Japanese candles in a process that involves wrapping bamboo skewers in Japanese paper and lamp wick material, then lacing silk around the result to make the candle wick. The method for candle-making handed down from ancient times in Japan uses natural wax from the fruit of the Japanese wax tree, which grows only in Japan, and has driven the independent production of Japanese candles. Unlike candles from the West, Japanese candles give off a light (Akari) with a faintly gentle sway.

安堵町 観光マップ

AND TOWN SIGHTSEEING MAP

- | | |
|------|----------|
| 国道 | ⊗ 学校 |
| 県道 | ⌌ 神社 |
| 一般道 | ⌌ 寺 |
| 有料道路 | ♂ トイレ |
| JR線 | ♂ 多目的トイレ |
| 近鉄線 | ♂ 観光スポット |

バスをご利用の場合

- バス停
- 奈良交通バスルート
- 南回りルート
- 中通りルート

このコミュニティバスのルートは平成27年3月からの運行となります。
お問い合わせ
 奈良交通 (NCバス) 郡山営業所
 TEL: 0743-58-3033

観光



ボランティアガイド
 古の歴史と文化の香る町、随所に文化や歴史的スポットがあり、おもてなしの心によるガイドで四季折々の自然を体感していただけるよう心掛けています。
 安堵観光ボランティアの会
 ■お問い合わせ (安堵町商工会)
 電話: 0743-57-1524 FAX: 0743-57-1526
<http://www.shokokai.or.jp/ando/> 又は anbokai@hotmail.co.jp

ほっと安堵朝市
 新鮮野菜も安く 雨天でも開催しています
 毎週日曜 朝9時より
 安堵中学校南側
 売り切れ次第閉店させていただきます
 ■主催: ほっと安堵朝市実行委員会
 ■お問い合わせ: 安堵町役場 産業建設課 0744-57-1511

安堵町モデルコース

Model Sightseeing Course for Ando

距離 10 km



① 安堵町歴史民俗資料館

奈良県再設置の功労者である今村勤三の生家跡に安堵町に関する資料が展示されています。伝統産業である灯芯づくりも紹介されています。
今村勤三… 7 ページ
灯芯ひき… 8 ページ

■ 安堵町大字東安堵 1322

TEL: 0743-57-5090

FAX: 0743-57-8895

開館時間: 9 時～17 時

(入館は 16 時まで 火曜日休館)

入館料: 一般 200 円

高・大生 100 円

小・中学生 50 円

安堵町ホームページ内
歴史民俗資料館紹介
<http://www.town.ando.nara.jp/>

安堵町歴史民俗資料館
公式ホームページ
mus.ando-rekimin.jp

① Ando Town Historical Folklore Museum

On display are materials related to the town of Ando in the remains of the home of Kinzo Imamura, who was instrumental to the re-institution of Nara Prefecture. Exhibits about the traditional industry of lamp wick making are also presented.



② 極楽寺 (広島大仏)

聖徳太子の創建と伝えられる寺。本尊阿弥陀如来坐像(重要文化財)、終戦直後に広島市で原爆犠牲者を弔った広島大仏(阿弥陀如来坐像)などが安置されています。600 巻の般若経も毎年「般若転読会」で見ることができます。春には梅の名所として有名。

■ 安堵町大字東安堵 1453

TEL: 0743-57-2231

拝観時間: 10 時～17 時

極楽寺

<http://www.gokurakuji.org/>

② Gokurakuji Temple (The Hiroshima Great Buddha)

It is said that this temple was founded by Prince Shotoku. Enshrined here are the Honzon Amida-no-rai Zazo (the principle image of the Amitabha Tathagata, seated; an important cultural asset) and the Hiroshima Great Buddha (Amida-no-rai Zazo (Amitabha Tathagata, seated)), which was built immediately after World War II to mourn those who died to the nuclear bomb at Hiroshima. The 600 volumes of the Daihannya-kyo can also be seen here every year at the Daihannya Tendokukai gathering. The temple is famous as a Japanese plum blossom viewing spot in the spring.



③ 善照寺 (富生の松)

境内には、福井県より水路で運ばれてきたと伝わる樹齢およそ 300 年になる「富生の松」があります。根が大きく盛り上がるように作られたのが特徴で、めずらしいことにニホンミツバチと共生しています。

■ 安堵町大字東安堵 342

TEL: 0743-57-2154

③ Zenshoji Temple (The Pine of Fusho)

Inside the grounds of this temple lies a nearly 300-year-old Japanese pine tree known as the Pine of Fusho, which is said to have been transported from Fukui Prefecture over the sea. With its characteristic root structure arranged to swell up greatly from the ground, it is notable for its unusual coexistence with Japanese honeybees.



④ 旧天理軽便鉄道 木戸池築堤

軽便鉄道は戦前に多く利用されていたミニ鉄道のことで、当時は蒸気機関車が走っていました。西安堵木戸池内にレンガ組の築堤が残っており、当時の面影を見ることができます。

④ Remains of a Bridge Girder of the Former Tenri Keiben Railway (Kido Pond Embankment)

The Keiben railway was a mini-railroad of the type often used before World War II, and at the time steam-powered trains ran on it. Within the Kido Pond in western Ando there remains a brick embankment, allowing you to see a vestige of that era.



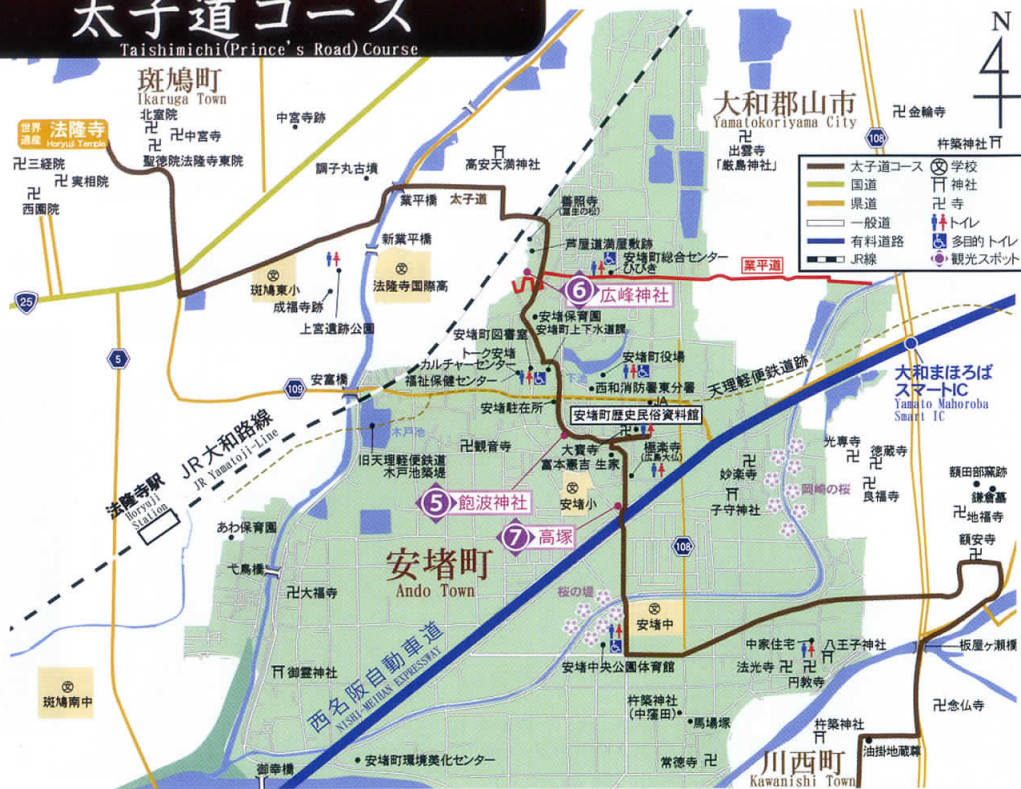
昭和初期 安堵駅
平城遷都1300年記念事業今昔集より

辻本忠夫氏スケッチより 資料提供 辻本奨之氏

太子道コース

Taishimichi (Prince's Road) Course

距離 13 km



⑤ Akunami Shrine (Main Hall: Designated as a Cultural Asset by Nara Prefecture) (Said to be Founded by Prince Shotoku)

This temple is designated for the protection of both eastern Ando and western Ando, and deifies Susanoo no Mikoto (the Shinto god of the sea and storms). The temple houses the votive pictures, ritualistic implements, and musical instruments for the Namode dance, which was revived after 100 years in 1995. The frame hung from the Shinto gateway is based on writing by Kenkichi Tomimoto.

⑥ 飽波神社 (本殿：県指定文化財) (聖徳太子創祀と伝わります。)

東安堵・西安堵の総鎮守社で、素盞鳴尊が祀られています。平成7年にはおよそ100年の時を経て復興された「なもで踊り」の絵馬や祭具、楽器を所蔵しています。鳥居に掲げられた額は富本憲吉の筆によるものです。

■ 安堵町大字東安堵 1379



⑥ Hiromine Shrine

This shrine is said to have been built in the place of Akunami Ashigaki Palace, with is connected with Prince Shotoku. The well in front of the Shinto gateway is also known as Narihira Sugatami no Ido ("the well where Narihira looked upon his appearance").

● 業平道

平安時代の歌人で、「伊勢物語」の主人公ともいわれている在原業平が、天理機本の自宅から河内高安の姫の元へ通った道と伝えられています。



業平姿見の井戸

⑥ ひろみね じん じゃ 広峰神社

聖徳太子ゆかりの飽波葦垣宮と伝わる地に建てられた神社です。鳥居前にある井戸は、業平姿見の井戸とも呼ばれています。

■ 安堵町大字東安堵 380



⑦ Takatsuka

There used to be a giant Sendan no Ki tree here, but it was felled by a typhoon in 1953. There is a large stone on the south side of the remaining root, under which the hawk used by a lord for falconry is said to be buried, which is where the name Takatsuka (which sounds like "hawk mound") is said to have originated, whereas another legend holds that this is where a hawk adored by Prince Shotoku is buried.

⑦ たかつか 高塚

大きな「せんだんの木」がありましたが、昭和28年の台風により倒れました。残った根元の南側に大石があり、この下に昔、タカ狩りをした殿様のタカを埋めてありタカ塚になったとも、聖徳太子がかわいがったタカを埋めたともいわれています。

安堵町立安堵中学校の校旗や校章は、このタカにちなみ辻本忠夫氏がデザインされたもので



なもで踊り (なもで踊り保存会)

雨乞い祈願が成就した場合に踊る満願踊りを「南無手踊り」といいます。



♪テンツクツ テンツクツ
デンデンツクツ テンツクツ〜♪
お囃子に乗って、村人たちが雨乞いをしています。



と、そこへ鬼(雷神)が現れ、
たちまち雨が!

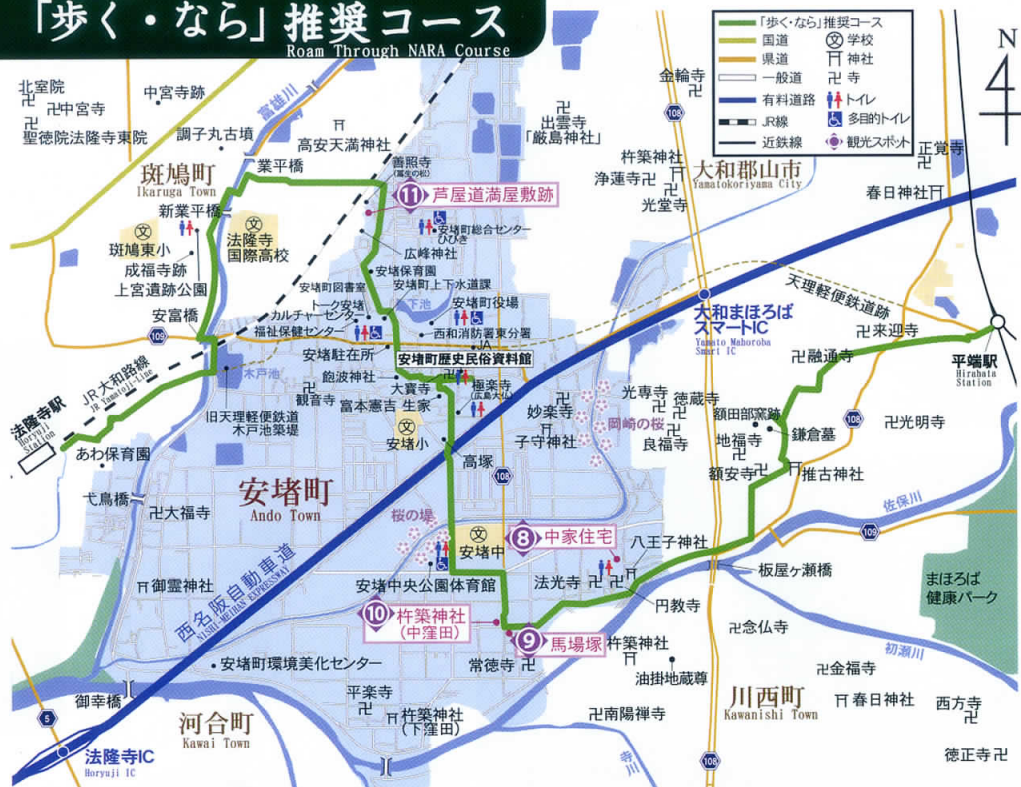


(喜ぶ村人たち)
〜♪ありがたや
安堵の明神ありがたや
雨は降らしゃる雨は降らしゃる
立願の踊りはひと踊り〜♪

飽波神社秋祭り宵宮に奉納される踊りの様子

奈良県「歩く・なら」推奨コース

距離8.5 km



⑧ 中家住宅 (重要文化財)

二重の濠をめぐらせた大和の環濠屋敷で、中世武士の平城式居館の姿をよくとどめています。広い敷地内には、大和棟の主屋、表門、新座敷、持仏堂、庫裏、勾玉型のめずらしいかまどや蒸し風呂などがあり、当時の生活がしのべられます。

■ 安堵町大字窪田 133
TEL: 0743-57-2284
維持管理協力金: 500 円
見学はできるだけ前日までの予約制

⑧ Nakake Jutaku (Naka Residence, an Important Cultural Asset)

In the circular-moat Yamato mansion around which runs a double moat, you can get a clear picture of the Hirajiro-style residence of a medieval samurai. In the large grounds, there many relics that give a sense of life in those times, including the main building in the Yamato-mune style, the front gate, a new parlor, a jibutsudo (personal Buddhist shrine), a priest's quarters, an unusual teardrop-shaped furnace, and a steam bath.



⑩ ばばづか 馬場塚

1本の大きな木の根元に五輪塔(地輪部)が立っています。戦国時代、申斐の武田勝頼の重臣であり、長篠の合戦で敗死した馬場美濃守信房の供養塔だといわれています。■ 安堵町大字窪田 (中窪田)

⑩ Babazuka

Here a five-ring tower (the cubic bottom ring portion) stands at the base of a single large tree. In the Sengoku Period, Baba Mino no Kami Nobufusa was the vassal of Katsuyori Takeda of the Kai Province and this tower is said to be his memorial tower after he was fatally defeated in the Battle of Nagashino.



⑩ きつきじんじゃ 杵築神社

素盞鳴命を祀る神社。境内には「十三重層塔」(現在は崩れて七重になっている)があり、平安時代の造立説があります。

■ 安堵町大字窪田 426
TEL: 0743-57-2555

⑩ Kitsuki Shrine

This is a shrine that deifies Susanoo no Mikoto. In the grounds is a thirteen-story tower (now collapsed to seven stories) that is theorized to have been built in the Heian Period.

⑩ あしやどうまんやしきあと 芦屋道満屋敷跡

善照寺から南へ10メートルほどの通称ヤップ山と呼ばれているところが芦屋道満の屋敷跡といわれています。道満は平安時代の有名な陰陽師で安倍晴明と術くらべをしたと伝えられる人物です。

⑩ Remains of Ashiya Doman's Mansion

A place known as "Mt. Yap" about ten meters south of Zenshoji Temple is said to be the remains of Ashiya Doman's mansion. Doman was a famous yin-yang master of the Heian Period, and legend has it that he matched wits in magical duels with Abe no Seimei.

● 「歩く・なら」

奈良県では、地元の人々と県・市町村の職員が力を合わせ、奈良をもっと楽しみ、歩いてもらえる仕組みづくりに取り組んでいます。その情報を広く発信するためのサイトが、「歩く・なら」です。どれくらいの距離をだれと歩きたいか、どの季節に何を目的に歩きたいかなど、自分に合ったルート選択ができるように細かくカテゴリー分けされています。楽しく歩いて、奈良をまるごと体感してみませんか。

<http://www.pref.nara.jp/miryoku/aruku/>

奈良のすばらしさを知ってもらえるようにと、一つひとつのルートを手作りで作成しています。



歩く・なら



観光

安堵町の土産

安堵町歴史民俗資料館

12ページ ①

お問い合わせ TEL: 0743-57-5090



切り灯芯

藁草からひき出された灯芯を灯明皿やたんころに使用できるサイズとなります。



たんころ

灯芯を油で灯す灯火具です。

灯芯

Toushin

灯芯について...8ページ



和ろうそく

灯芯を用いた和ろうそく



ミニ行灯「しあわせの灯」



大和なたね油

藁草

Igusa

藁草について...8ページ



匂い袋

藁草に精油を染みこませた匂い袋

藁草を使った飾りです。



吉祥の亀



千鶴万亀

大和古代米



赤米

赤飯の原種であり、タンニン系の色素が含まれ現代では、健康食品として注目されています。

緑米

収穫量が少ない品種で希少種とされ、クロフィル系の色素が含まれて赤米と同じく健康食品として注目されています。

実り

赤飯と緑米をブレンドしました。

古代米

Kodaimai

古代米かきもち

赤米を使用した非常にヘルシーなかきもちです。



中家住宅

16ページ ⑧

お問い合わせ TEL: 0743-57-2284

「中家の魅力」

中世武士の生活を今に伝える貴重な「中家住宅」の魅力を紹介する本。周辺の歴史解説もされています。

「太子道 聖徳太子の道を往く」

太子道の主要な3ルートを紹介する、史跡探訪に必携の書です。



一筆箋

ちょっと一言添えたいときに便利な一筆箋。万葉の花など約30種類もの趣あふれる日本画一筆箋を取り扱っています。



お土産

主なイベント歳時記

春

4月上旬 夜桜まつりと夢あかり

安堵中央公園グラウンド横の岡崎川堤防で、桜並木のライトアップに加え、川床の遊歩道に並べられたLEDランプが水辺に映える華麗優雅なイベントを開催しています。

■安堵町役場 産業建設課 0743-57-1511 (代)



安堵中央公園北側 岡崎川堤防

夏

8月5日頃 広島大仏・あんど祈りのつどい

広島大仏(極楽寺)のもと、平和祈念式典や世界平和を願う色々な催しが開かれます。約2,000個のろうそくやLEDの灯りとプロジェクションマッピングの投影などを行います。

■安堵町役場 産業建設課 0743-57-1511 (代)



旧役場跡地

8月下旬 ふれあい盆踊り大会

様々な露店が出揃い、江州音頭や河内音頭で盛り上げます。

■安堵町 商工会 0743-57-1524



安堵中央公園 多目的広場

秋

10月頃 あんど芋煮会

地元産の野菜や大和牛を使用して作る「あんどの芋煮鍋」は、春の「夜桜まつりと夢あかり」などのシーズンを代表するイベントの一つです。(あんどの芋煮鍋は2014年に開催された第1回あったかもんグランプリにおいて、「審査員奨励賞」を受賞しました。)

■安堵町役場 産業建設課 0743-57-1511 (代)



10月下旬 なもで踊り奉納

なもで踊り...15 ページ

雨乞い祈願が成就した場合に踊る満願踊りをなもで踊りといえます。

■安堵町歴史民俗資料館 0743-57-5090



飽波神社

11月上旬 安堵町文化祭

安堵町の歴史や文化に身近に触れていただくため、文化講演会等を開催しています。

■安堵町教育委員会事務局 0743-57-1511 (代)

■トーク安堵カルチャーセンター 0743-57-2281



トーク安堵カルチャーセンター 大ホール

11月下旬 産業フェスティバル

町内の「商工業・農業・観光」産業を一堂に集めたイベント

■安堵町役場 産業建設課 0743-57-1511 (代)

■安堵町 商工会 0743-57-1524



トーク安堵カルチャーセンター 南側駐車場

冬

1月中旬 初釜茶会

安堵町歴史民俗資料館恒例の初春行事。今村文吾や天誅組で有名な伴林光平にゆかりのある安堵町歴史民俗資料館内にある茶室「杏庵」で開かれます。

■安堵町歴史民俗資料館 0743-57-5090



茶室「杏庵」

2月11日 天理軽便鉄道模型運転会

かつて安堵町を通っていた天理軽便鉄道の最終運転日にちなみ、復元車両などを走らせてみます。(※乗車運転会ではありません。)

旧天理軽便鉄道 木戸池築堤...13 ページ

■安堵町歴史民俗資料館 0743-57-5090



安堵町歴史民俗資料館

⑫ 安堵町役場 1 階ロビー・庁舎ギャラリー

観光マップ
10 ページ



休憩スペース

↑ 富本憲吉の美術品に加え、安堵町の伝統産業である「灯芯」からなる伝統工芸品などを展示しています。

← ご来庁の際は、是非ご活用ください。

安堵町役場 (開庁: 平日8時30分~17時15分)
〒639-1095
■奈良県生駒郡安堵町大字東安堵 958 番地
TEL: 0743-57-1511 (代)

イベント